

**共同体育館整備に係る
経過及び課題、議論の方向性**

1 検討経過

H21.10 北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告

北山地域が文化・環境・学術の交流・発信拠点となるよう将来像の基本的方向性「街区構想」を描くために検討報告書を取りまとめ

▶ 学ぶ(学術)エリア

3大学連携拠点にふさわしい教養教育共同化施設の建設や学生の交流を深めるスポーツ施設等の整備

H29.3 京都府立大学 基本構想委員会まとめ

外部委員も含めた基本構想委員会において将来ビジョンやキャンパス整備の方向性について提言を取りまとめ

▶ 耐震性の低い体育館については優先課題とし、三大学連携の中での新たな体育館整備を検討

R元.10 京都府総合計画 京都市域のエリア構想「北山『文化と憩い』の交流構想」

京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアの形成

▶ 府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の共用体育館機能を有したアリーナの整備検討

R2.3 京都府立大学 将来構想基本計画・施設整備基本構想

実現を目指す大学像及びキャンパス整備の方向性について取りまとめ

▶ 体育館については、体育教育・学生スポーツとあわせて、市民スポーツ・健康増進事業なども視野に入れてアリーナ機能をもった多目的施設として利活用を図っていく

R2.12 北山エリア整備基本計画

「北山『文化と憩い』の交流構想」を実現するにあたり、北山エリアの整備の方向性を示すために「北山エリア整備基本計画」を取りまとめ

▶ アリーナ機能を備えた共同体育館の整備

R4.1 京都府立大学 「新生・京都府立大学」改革プラン

府立大学が目指す学部学科像(再編の方向性)を取りまとめ

R4.3 京都府立大学整備構想

学部学科再編の方向性等を踏まえた施設整備の方向性やコンセプトを整理し、共同体育館についても構想の中に位置付け

R4.8～ 共同体育館整備に係る意見聴取会議

※同会議で有識者からの意見聴取を行いながら、具体的な整備内容を検討

(意見聴取会議等と併行して、府立大学内で学舎整備に係る基本計画を検討中)

2 府立大学整備構想における共同体育館整備の位置付け等について

北山エリアのコンセプトとの整合

北山エリア整備基本計画に基づくエリアコンセプト『憩いの緑と躍動するまちが融合した「文化創造の森」の創出～豊かな自然の中で創造される文化・芸術・学術・スポーツに身近に出会い、交流するまち 京都北山～』に基づき、以下のエリア整備の方向性に配慮し、アメニティにあふれた整備を進める。

- 植物園の緑がエリア内に広がり、各施設が木々の緑の中に佇む空間の創出
- 施設の枠を越えて人が自由に往来できる空間づくり
- 日常的に人が集い交流できるまちの形成
- 新たに整備する建築物の外観に配慮し、調和の取れた景観形成

共同体育館の整備

本学体育館は、本学及び府立医科大学医学科の授業で利用してきたが、現在授業での使用を中止しており早期整備が喫緊の課題となっている。共同体育館の整備に向けては、次項に示す「北山エリア整備基本計画」が昨年度策定されたところであるが、ここで検討されてきた共同体育館の整備内容を基本に、学生が安心安全に授業や課外活動を行えるよう、以下の点(これまでの利用レベルが確保されること、安心・安全の確保と教育・研究に支障がないこと、大学の負担が増加しないこと)を前提として、引き続き京都府と調整を行う。

共同体育館の施設整備概要

- 大学と府民、地域におけるスポーツの拠点
大学施設として府立大学及び府立医科大学の学生が安心安全に授業や課外活動を行えることを基本としつつ、京都工芸繊維大学との共同利用や、地域の活性化や府民の健康増進にも資することを目指す。
また、京都における学生スポーツの拠点となる機能を備えるとともに、学生や府民がスポーツや文化イベント等を「観る」環境を整え、地域スポーツ及び文化を活性化する環境の造成や地域コミュニティの創出に寄与する施設とする。
- 先進的な取組や多機能、多目的な利用への対応
大学の研究と連携した先進的な取組やデータ活用などを実践できる機能を備え、スポーツ、医療、健康に資することを目指すとともに、スポーツが府民の日常の一部になるような施設とする。
また、大規模災害発生時の周辺住民の避難や、災害復旧時の拠点としても使用できる設備を整え、周辺住民の安心・安全の支えになる施設とする。

3 課題及び主な論点について

課題

- 府立大学、府立医科大学ともに体育館が老朽化しており、早期の建替が必要。
- 「地域に開かれた大学」として、さらに魅力的で府民に貢献できる大学を目指すためにはどのような施設にすべきなのか、大学として幅広いアイデアが必要。
- 共同体育館として整備するにあたり、学生利用を大前提としながらも、「府民の資産」であることを念頭に、学生利用以外に空いた時間・スペースをいかに有効利活用し、府民サービスにつながる取り組みが出来るのか、京都府としても多様な発想を求めている。
- 北山をさらに魅力的なエリアにするためには、共同体育館と他施設をどのように連携させ調和を図っていくのか、幅広いアイデアが必要。

学生利用を大前提とした上で、新しい大学体育館のあり方について意見交換を行いたい。

<ご意見をいただきたい主な論点>

(1) 共同体育館における多用途利用のあり方及び具体的な活用方法に関すること

- ・府民サービスの向上に繋がる活用について(学生スポーツ、国際大会、障害者スポーツ など)
- ・「地域に開かれた大学」として、地域住民の利便性向上に繋がる活用について(地域のスポーツ振興、防災 など)
- ・大学の教育・研究機能の向上に繋がる活用について(教育・研究のフィールドとしての活用、学会・フォーラム会場での活用 など)

(2) 共同体育館における施設等の整備及び運営並びにその事業手法に関すること

- ・上記(1)を踏まえた施設に求められる機能、施設・設備等について
- ・施設の整備・運営の手法等について

(3) 北山エリア内の他施設との連携、周辺環境との調和等に関すること

4 北山エリア及び府立大学の現況図(参考)

